

編集後記

まずもって、『芸術世界』東京工芸大学芸術学部紀要第13号に論文・作品をご投稿くださいました先生方に、お礼申し上げます。前年度より三点多く掲載できましたこと、心より感謝致しております。

ところで最近、大学の教員は多忙をきわめるようになりました。学者馬鹿という言葉が懐かしくさえ感じるようになりました。自分で必死に研究したことを教室で話せばよいという時代も、今は昔となってしまいました。だれにでもわかる講義をするために骨身を削り、多くの委員会を作り、委員会の「はしご」をする、などということも日常茶飯事になってまいりました。そんな中で研究に邁進することは、強靱な意志力を必要とします。しかし、何としてでもやらねばならないことです。あるいは時間がないからこそ、鋭い研究ができるかも知れません。お互いに頑張りたいと思います。

今回も、きびしい査読を何点かいただきました。しかしそれにもめげず、それを乗り越え、全論文・作品が提出され、掲載されました。査読者の方々に感謝しながら、同時に投稿者の研究意欲に感服し、編集者としてとても頼もしく感じました。

特に外国のご出身の先生方には、日本語の表現でご苦勞があったことと思いますが、よく頑張ってくださいました。

また芸術学部の専門もきわめて多種多様になりました。スケールも大きくなり、表現形態も多元的になり、今後紀要もさまざまな改良をしなければならなくなりましたが、この点については先生方のご助言やご指導を仰ぎたいと思いますので、よろしくお願い致します。

最後になりましたが、今回の表紙は、今年度でもって定年退職をなさいます阪川武志教授にお願い致しましたところ、快く力作を寄せていただきました。心より感謝申し上げます。

平成19年3月 紀要編集委員長 加藤 智 見

芸術世界

東京工芸大学芸術学部紀要 Vol. 13

2007年3月31日 発行

編 集	東京工芸大学芸術学部 紀要編集委員会
発 行	東京工芸大学芸術学部 〒164-8678 東京都中野区本町2-9-5 Tel. (03) 3372-1321 Fax. (03) 3372-1330
印 刷	有限会社 啓文堂 松本印刷 東京都新宿区早稲田鶴巻町 565-12